

今月の論語

便佞を
友とするは損なり

口先だけが上手な人を
友達にすると損をする。

今月の福宅放送は、東原岸舎東部校9年の室中陽翔さんです

野の仏ギャラリー⑳

大日如来坐像

南多久町田柄



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

丸彫りの坐像で方形の台上に安置されています。頭部に三面からなる蓮弁状の高い宝冠を載せ、左右二面に立像の仏、正面に坐像の仏が彫られています。面長の顔で額に白毫があります。手は右手の上に左手を重ね、両手の親指の先を合わせる法界定印(禪定印)としています。腕と手首に円環状の飾り(釧)を着けています。大日如来は密教の本尊とされます。

銘「宝永五戊子正月吉日 大日如来 日待講衆 卅一人立」

- 如来は真理に到達し修行を完成した者を称します。
- 白毫は仏の眉間に生える白い毛で光明を放ちます。
- 銘の宝永五戊子は西暦一七〇八年です。
- 銘の講衆は講に参加する人で、今回の例では大日如来を信仰する二十一人です。

連載

教育長コラム

ちよっとい話



子どもたちを支える年で
ありますように

「大学に合格しました」
推薦入学制度で、地元国立大学に一早く合格した18歳からの師走の報告に涙した。母は事情で家におらず、父は長い出稼ぎの後に早逝。祖父母が懸命に育てられた。祖父母は、20代の担任にも快く「先生の言われる通りだ」と頼って協力的で、学校行事も助けていた。いた。上場台地から唐津市内への通学は車で送迎しなくてはならないので、高校の通学さえ心配した。しかし、運動部活動もこなし進学の切符を手にした。
境遇のせいにして甘えることもできるのに、頑張った。電話の横で祖父母の嬉し泣きが聞こえそうだった。支える側の苦労はまだまだ続くが、ひとまず安堵。
「教育学部です」。間もなく素晴らしい先生が誕生する。
このような境遇にある子どもたちを支える、良き年でありますように。

教育長 田原優子

市民文芸

悲しみの底にしずめば侍せの
日々のおごりを静かに想う
川浪 信子

福祉より介護表彰 我受くる
君のお蔭と 夫涙ぐむ
梶原恵美子

白寿まで 詩吟詠ずと競い合う
卒寿が二人傘寿は三人
浦野 嘉恵

こんなにも愛されているこんなにも
満たされているずっと明日も
野崎 隆幸

七年間権力の座にうごめいて
国民の生の姿知り得ず
尾形 節子

冬灯読み入る本の謎を解く
本村 則子

冬の月背中の赤子眠りつく
おおやはな
武富 律子

廻り来る忌日の母に石路咲けり
中嶋 清子

連山に影を落して冬日暮る
富樫 明美

難聴の俺には辛いデイスタンス
松下 修

斬新さ味も揃った宇宙食
大谷 和

名工の今に伝える 妻い技
中尾 和弘

◆老年になっても今が始発点
西山 残月
◆拉致家族今も我が子待ち続け
猪ノ口昭子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久市川柳会互選》